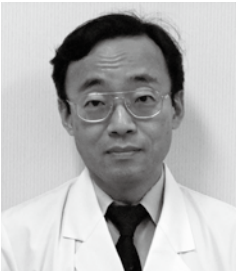
北里大学病院
News Letter　2010. August . 1st
No.87
Mado窓



内分泌代謝内科の紹介

内分泌代謝内科　七里　眞義

北里大学内分泌代謝内科は東病院の新設の際に矢島義忠先生を診療科長として発足し、藤田芳邦前教授が継承されてこられましたが、昨年、藤田先生が定年退職された後に小生が着任いたしました。私は昭和55年に東京医科歯科大学医学部を卒業後、東京、神奈川、茨城の基幹的病院での勤務を経て前任地の東京医科歯科大学では内分泌代謝内科の臨床に約20年間、携わってまいりました。約7年前には同医学部附属病院の医療福祉支援センター長を命ぜられ、病診・病々連携や退院支援と在院日数の短縮化、安全性や医療の質の向上のための院内体制作りを含む患者支援業務を統括する立場となりましたが、ソーシャルワーカーとは何をする人でどうして医療連携が必要なのかすら知らなかった国立大学附属病院が、法人化後に自立するための協力なども行って参りました。前任地は東京駅から2駅で5分のところにあり、駅から徒歩10分以内に10以上の大病院がある「医療従事者昼間人口過剰地域」のはずでしたが、患者さんはどんな遠くからでも電車でいらっしゃるため、「患者昼間人口」も過剰となるため、不思議にうまく釣り合いが取れていました。その為、入院患者さんに地元の方は大変少なく、患者さんの自宅やご家族がお住まいの地域の医療施設へ、ソーシャルワーカーが電話をしまくって何とか転院先を捜すという涙ぐましい努力を続けなければ、新たな救急搬送を受けられなくなる事態が続いておりました。

このように「超都心」型の医療連携のまっただ中にいた私ですが、病診・病々連携ということについても都心の臨床医には珍しいくらい勉強したつもりで北里大学に赴任しました。しかし、いざ内分泌糖尿病診療に携わってみますと驚くことの連続でした。まず、政令指定都市になろうとしていた相模原市内に在籍する内分泌代謝専門医と糖尿病専門医を両学会の専門医名簿で検索してみましたら、北里大学在籍者を除外するとわずか8名しか登録されておらず、北里大学診療圏は糖尿病・内分泌医療の「超過疎地域」であることが明らかになりました。全国どこの大病院も糖尿病や内分泌の患者さんで溢れているのは普通ですが、北里大学病院では2型糖尿病の方はだいたい3大合併症が進行しているうえ、外国に来たのではないかと錯覚するほど多くの1型糖尿病の患者さんがいらっしゃって、こうした患者さんたちで溢れています。また、甲状腺や副腎、下垂体疾患の方はちょっと落ち着くと3ヶ月処方にしないと、到底、新患を受け入れる余裕がなくなります。糖尿病性腎症の方が溢水状態で内分泌代謝内科に運ばれてくることは日常茶飯事で、糖尿病性ケトアシドーシスの頻度は他の大規模病院に比べて圧倒的に多いといえます。専門医に受診したくてもあの待ち時間（に加えて短い診療時間？）では耐えられない方が、まだまだ大勢いらっしゃるに違いないと確信した次第です。

赤裸々な内分泌代謝内科の紹介になってしまいましたが、当面は入院中の患者さんが療養を速やかに継続できるよう、関係者の皆様にこれまで同様の病診・病々連携をお願い申し上げつつ、今後、このような診療環境に最も相応しい医療連携のあり方をご提案できるよう、まずは教室に所属している有能でこころやさしい若手臨床医たちの育成に努力する次第です。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（しちり　まさよし：内分泌代謝内科学教授）

北里大学病院における NST活動について

NST委員会

1. 当院のNSTの活動状況

Nutrition Support Teamの略で栄養管理チームを意味するNSTは1998年に救命救急センターの単科で、2006年からは全科で院内の活動を開始した。当院におけるNST活動は病院長直下のNST委員会と、その下部組織である病棟NST（診療科）で構成されている。NSTの役割としては、①栄養スクリーニング（SGA）、②栄養アセスメント（栄養評価）、③栄養内容のチェック、④栄養管理計画の立案、⑤モニタリング、効果判定、⑥栄養関連合併症の予防、早期発見、治療、⑦新しい知識や技術の習得、紹介などがあげられる。

病棟NST活動も5年目に入ったが、当院では各診療単位で医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士･言語聴覚士（一部病棟）などのNSTメンバーから、問題提起された患者さんについて低栄養・食欲不振・褥瘡などが専門病態別に検討されている。そのカンファレンス年間延べ開催数は2006年517回から2009年596回、延べ検討症例数1205件から4136件と増加した（表1）。ターミナルの患者も含むため、アルブミンなど栄養状態の明らかな改善を示すまでは困難であるが、表2に示すように、栄養指標項目測定件数の増加が見られている。栄養指標項目については､外注であったTTR（トランスサイレチン）、RTP（レチノール結合たんぱく質）、亜鉛がNSTの要請により当院での測定が可能となり即時結果が得られるようになった。また、今年の3月には各病棟NSTおよびNST委員会委員の協力を得て「栄養管理マニュアル」冊子が完成し、日頃の業務に活用されている。

2. 栄養管理サポートチーム加算と今後の課題

2010年度診療報酬改訂においては、「栄養サポートチーム加算」（1人週1回200点）が新設された。算定要件として専任のチーム体制だけではなく、活動内容や質を担保する項目となっていることが特徴である。退院後の在宅における栄養管理指導や地域連携に着目した転院先へ情報提供なども要件には組み込まれている。今後は、地域連携とのNST活動を活発にしていきたいと考えている。まずはお互いの顔がわかるようにと、神奈川県あるいは相模原地域の摂食・嚥下リハビリテーション研究会からの発信で患者情報の交換方法の検討なども開始されている。2010年度から当院では、NST勉強会を地域にオープンしている。毎月第1金曜日（次回は9月3日金曜日午後17：30 ～ 18：30　場所：臨床講義室No.1　テーマ：重症患者の栄養管理　講師：救命救急科講師・NST委員会委員長　片岡祐一）に開催しているのでぜひ、ご参加ください。

また、今回の新設加算と同時に施設基準のスタッフ「所定の研修の修了」を求めて、教育施設である当院（救命救急センター）に受講の申し込みが急に増加し、年度末まで予定を立てた状況である。今後研修希望される方は平成23年4月からになることをご了承願いたい。

（問い合わせ先　NST委員会事務局：北里大学病院栄養部　佐藤　TEL 042-778-8105）

	平成18年度	平成21年度
NSTカンファレンス回数（回）	517	596
延べ検討症例数（件）	1205	4136

各病棟で多かった問題点上位順（平成21年度後期）
低栄養
食欲不振
褥瘡
摂取不良
投与栄養量過不足
嚥下困難
治療
栄養評価指標の不足
下痢
その他

表1　NSTカンファレンス実施状況

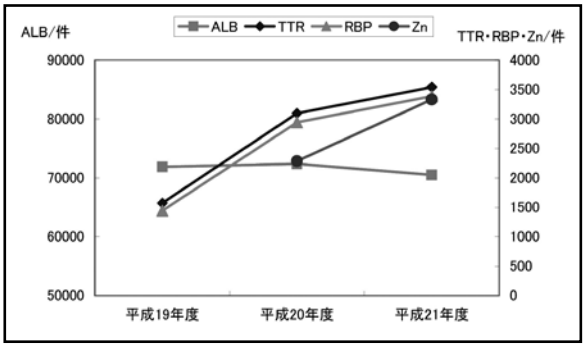


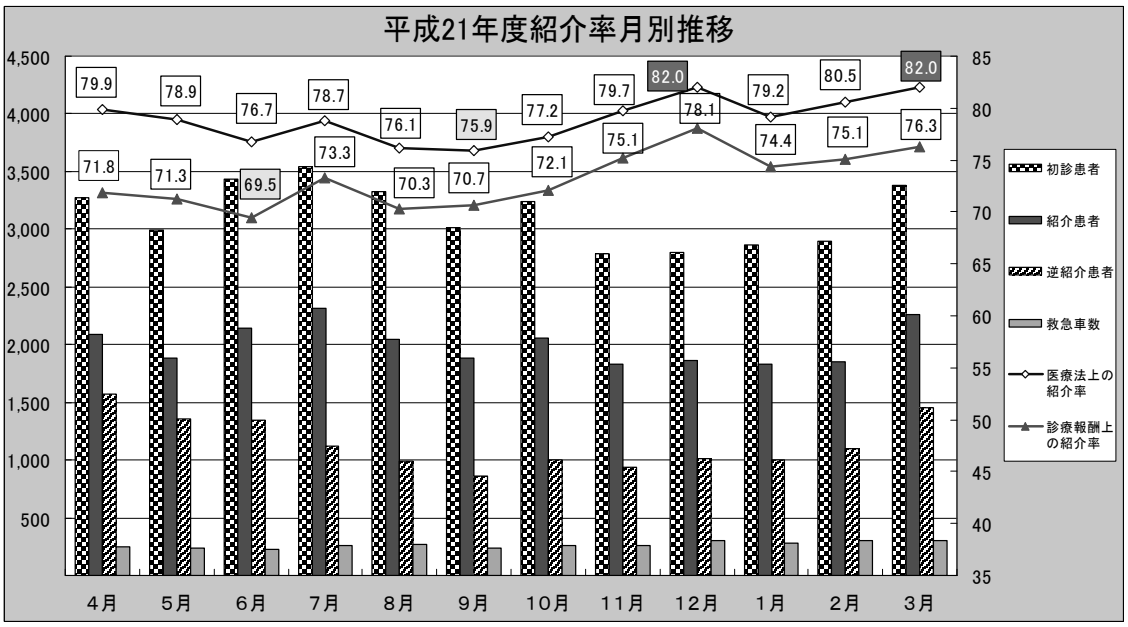
表2　栄養評価項目測定件数の推移

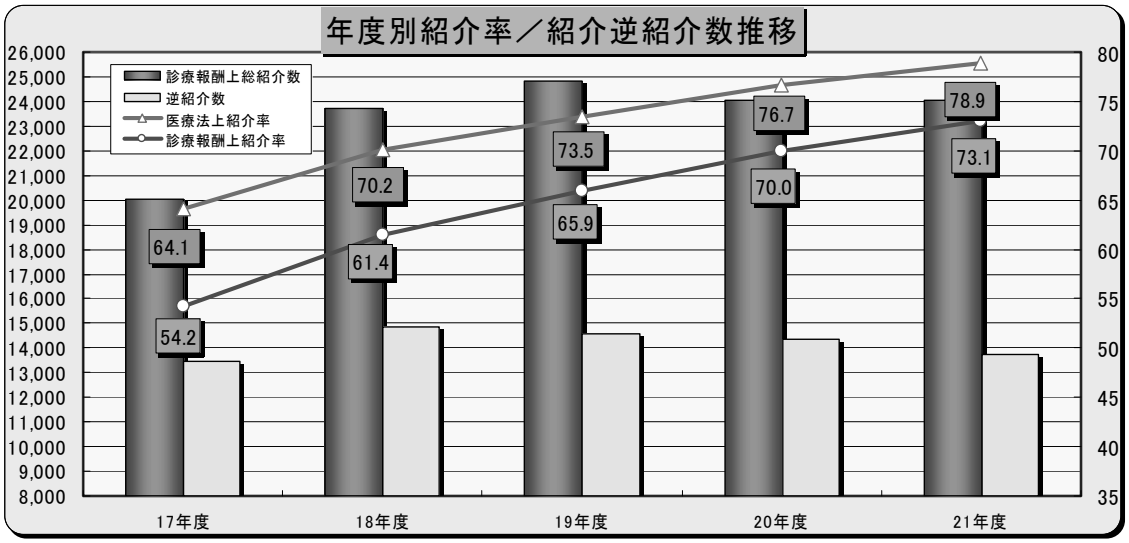
平成21年度患者紹介率の報告について

北里大学病院　患者支援センター部

日頃より当院の病診連携業務には大変お世話になっております、お蔭様で平成21年度の患者紹介率は、年度平均で医療法上78.9%（昨年76.7%）、診療報酬上73.1%（昨年70.0%）で、ここ数年の増加傾向を継続し過去最高値となりました。これも各医療機関をはじめ近隣の医師会・地区病院協会の皆様方のご協力の賜物と感謝の意に耐えません。この場をお借りしてお礼申しあげます。

今回の診療報酬改正では、地域連携に係わる業務の評価が増え、益々病診連携の如何が算定上でも重要な要件となりました。今後も引続き地域の一翼となり病診連携の強化に努める所存です。





当センターのソーシャルワーカー紹介

後列左から／市川、小林、早坂、左右田　　前列左から／本間、中村、前田

今回は当センターのソーシャルワーカーを紹介させていただきます。「ソーシャルワーカー」という職種にあまりなじみのない方もいらっしゃるかもしれませんので、どのような職種か簡単に説明させていただきます。

1. 医療費の支払いが心配されている患者さん・ご家族へ、社会保障制度の活用をはかることにより、安心して医療を受けられるための支援
2. 傷病を抱えることで発生する、社会的もしくは心理的な課題についての患者さん・ご家族等への支援
3. 退院後の生活を支える体制作りの支援
4. リハビリが必要であったり、自宅での生活が困難な患者さんの入院先の検討・支援
5. 患者さんの社会復帰にむけた支援
6. 地域の他医療機関や行政・福祉機関との連携活動
7. がん相談支援センターの相談員としての相談業務
8. 患者さん・ご家族からのご意見、苦情の対応

メンバーは「早坂由美子、左右田哲、前田景子、中村球恵、大坪美佳（産休中）、本間わかな、小林可奈（産休代替）、市川賀一」になります。

これらのスタッフで相談や連携等の対応をしております。よろしくお願いいたします。

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
北里大学病院　患者支援センター部
TEL 042-778-9988　FAX 042-778-9599
http://www.khp.kitasato-u.ac.jp/khp/
E-mail ／ shoukaiw@kitasato-u.ac.jp

北里大学病院ニューズレター　窓 No.87　発行：北里大学病院　患者支援センター部　発行責任者：東原 正明　住所：〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里1-15-1　TEL.042-778-8111（代表）042-778-9988（ダイヤル・イン）FAX.042-778-9599